昭和60年3月9日

として、社会の一員として自立さ ございます。これから主体的人格

第二十八回卒業生、

おめでとう

努力しています。何故ならば、こ れがミッション・スクールの使命

ことを約束されています

自分の

を創立以来の方針としてかかげて い心の持主となることです。これ 人の為に働くことの出来る、 な人格となることです。即ち、他 神は、若人が将来、国際的に豊か

何一つ忌み嫌われません。この様

に私達の生命を愛し、保護される

して下さいます。遊られたものは

神は存在するものを、すべて愛

国際青年の年

正しい事に挑戦する心をもて

村

田

源

燃やせエネルギー、限りなき前進を 28期生

# 思い出を胸に二二八名

印刷網吉川印刷工業所

担

墨で行われた。村田校長から!人一人卒業証書を受けとり、 すを交わした卒業生は喜びの内にも一ケ月後に控えた入試を思 第二十八回卒業式が去る二月八日、厳粛な雰囲気の中、 にして、今年度は国際青年の年と 対してだけでなく、若人を指導す して国連は希望とエネルギーの旺 へ格をめざして努力することを<br />
訴

> あるのだと思うと、あまり……。 味をなざぬかは、受け止める側に

たようなものだ。つまり、

自分自

いずれにしろ、君達を送り出す。身で艫舵を取らればならなくな

ష

羽ばたくこの時期に、自分のもの

の見方、考え方の基となるものを

うで…。所詮、言葉は言葉。言葉

絶した断層を認めて、驚かされる

待ち受けている筈である。その隔

者も多いのではないだろうか。

書きたいことは山ほどあるよ

卒業生に送る言葉が欲しいとい | く違った環境を用意して、

が生きて意味をなずか、死して意

てか一様に緊張した表情で洛星に別れを告げていった。

和の確立になることと確信してい 術の進歩により人間生活を豊かに 為の社会参加の基礎作り、科学技 思いに対して正しい解決を成す を正しく活用される様努力して下 えていると思います。二十一世紀 る大人にもその責任の重大さを訴 してゆく開発心がゆだねられてい 問題、特に政治・経済、色んな 知的欲求と燃えるエネルギ 正しく挑戦することが世界平 諸君もこの期待に応える様 つという、この初めての体験は貴 量を育かに噛み締めていたと思 らればならない生徒や保護者との 重なものであった。否が心でも係 その時、そこには名状し難い感慨 があった。私は私なりに、その無 より身近な交わり、どうにも避け

私にとって、直に担任を受け持

を開発する原動力となり、創造性 掴んで欲しい。それは自分の知能

やまれば人類の死滅の危機になる な発展をなして来ました。しか にあった自己中心的であったり、 宗教的エゴイズムの為に、一歩あ 目先の自分だけの成功のみを考え 可能性があります。この様な社会 現代は、科学技術の進歩のお蔭 その結果、特に日本は世界的 その反面、国民的・人種的・ 国際交流は易しくなりまし

生活は、今までの高校生活とは全一う。

る。これから始まろうとする大学 を見据えて、自分の進略を見定め てしまった現実を看過するわけに もいかない。君達はこうした事態 こうした事柄に直に携わることに て行かねばならなかったのであ 材を提供してくれたと思う。しか よる感得は、考えさせる様々な素 ては通れない大学受験という柵、 社会的環境や風潮が築き上げ

を占ってみようかと思っている。 った私自身の高校時代と想い比べ ながら、君達を見つめ、感懐して 一人を想い起しては、その行く末 時を隔てて遠く過ぎ去ってしま

小 さ

な 流

君は人間の生命の尊厳を理解する る人格であってはなりません。

これからその倫理観に基づいて、 倫理観の基礎を作っただけです。 んで下さい。諸君は中学・高等学 者として、人類の最も希望する平 校生活を通じて人間として正しい これからが人格としての生 自立的に真に生きるの さな流れがあります。この川は、 の脳に、幅は一米にもみたない小田してしまいました。 社会の中に、自然の中に、力強 若い諸君、一人ひとりがこの広い | 協一、「「「という」とは、「「という」という。 | のに投やした研修旅行……。 A | 年期の様に、散歩している小径。 で、送り火の宵でもないのに思い。 | 半の時間を脚本とその原本を読む 巣立ちの時が来ましたね。また| 飛びたたれるのです。 数軒の住宅と、大学の

さわしい新しい決意を持って頂き 反省して頂き、<br />
国際青年の年にふ

近くの農家の方々が、季節、折々 七ぐさの草を、この畠中の川の周|せん。 した。今年の七日正月も、私は、 に、底をさらえ、草を刈り、維持 あの凸凹の、黒い土の小径も、

今、私は、又も、何か、大きなも」る度合が増えて来た様にも思いま た、ミゾに変ってしまったのでに、ひしひしと、迫って来ます。 コンクリートの、直線で仕切られ一的な、乾いた、冷めたさが、身近 と便利にはなるのでしょうが、 りで摘み、祝いました。 しかし、つい先日、この流れが コンクリートになれば、 例が 気のせいか、 世の中の文明が、年々、進んで

るに際して本学園の建学の精神が

先ず、本学園の高校を終了され

人の為に働く人格になることが如

かに日常生活に応用されたか、

名に何が期待されているかを考え

不幸にして、自己中心に成り易

又目先の成功に走り易く、

育てなければならないのです

誰もが知っている様に、人間は

代の担い手となる健全な後継者を だからです。また、学校は次の世

が、国際青年の年として若い諸 れる喜びがいかに大きいか解りま

檄を中に、大文字から、妙法まで 家の前から見えた、比

が、小魚やザリガニを追っていまう。私も又、その道に慣れ、この されていました。夏には、子供達しれアスファルト道になるのでしょ 失ったものを、忘れるかも知れま クリートの茎がされ、今朝歩いた 魚は泳がず、せりも消え、コン

リートジャングルの冷たさを感じ くる時、コンクリートの様な人工

ものが、諸君にはありませんか。 定験勉強優先などと、一寸、 潤いとか、何か暖かいものを、 忘れ

ていたもの、隅に押しやっていた一る人に、一層の輝きを加え、諸君 **| 然と共に取り出し、緑色にでも|| げてくれるものと思います。** にふざわしく磨かれた人に、 を一段と素晴らしいおとなに、齢 自然な人間の潤いは、

諸君に期待する

部にでもして欲しいものです。

HIIC担任

った。折に触れ、時には君達一人に、私の伝え得なかった数学の美一持も心の中に広がってゆくのでは 過した一年は、兎にも角にも、終一たか疑問です。将来、何かの機会一えるし、薄れている思いやりの気 して受け入れてくれるものであ一めな顔でしゃべって来たものだと であり、如何なる思想をも従容とない講義をよくもまあ、くそまじ にも繋がるからである。不思議な一出の一番重要な部分を占めること一界だけでなく 願わくは、<br />
感受性が<br />
最も豊かに<br />
偶数の、 自然は貧欲なまでに豊かになりそうです。面白おかしくも 美しさを持っているのですが、そ 出しました。偶然とはいえ、このが縮まってゆく期の卒業生を送り のは、 れをどのくらい伝えることが出来一いろのものへの感謝の気持も芽ば 聞いてくれたと思います。数学は一ることから生まれるものである事 透明な、他のものに煩わされない 思いますし、諸君もよく我慢して一 28期の諸君で収束してしまうと思 私が規初に卒業学年を担任した一に旅する機会に恵まれました。 22期 諸君との出会いは私の思い しかも等比数例的に間隔一た上での認識とは、 私はアメリカとメキシコ一待しています。 を忘れないで下さい。そうするこ の国際感覚は我々の住んでいる日 あることを知りました。そして日 とによって、 本をこの上なく愛し、深く見つめ 欲しいということです。 い視野をもった国際人に成長 本当に良い国だということを印象 ものと、現実に目で見、人に接し ないでしょうか。 我々を取り巻くいろ 人間性の上でも広 かなりの差が 4

ことに、

卒業式の日に想う

澤

|新館で、突然に失くしたことま|思いきり暴れまわった体育祭、大|ン姿の老人がただ一人、試験場に 人、校長と握手をしている。 一君。 N君。 そして K君。 一 のみならず君達は華やかに活動を して、いつまでも生きつづけてい の中に何ものにも代え難い宝物と一がるな! でグランプリを手にした文化祭、 読み上げているとき、諸君達と共一ヤア今日は、エヘヘヘ」という声 くことと信じている かしい想い出となって、私達の胸 してきた。 の前に浮かんできた。「時の石」 に過した日々の出来事が次々と目 そしてそれが、今は懐 そしてK君。一人一 門で言葉を掛けては、なにか懐か パスに向かって、 やがて、人気のなくなったキャン と同時に髭面が現われる。夕方遅 後にしたのである。 しい気持ちがしてきたのである。 つっ立つハメになるのである。 やる。パネルが出来上る。マラソ くまでセッセセッセと大工仕事を だけ大変な雪であった。大学の校 当日は寒かった。なぜかその日一と尋ねると、 と声にならない声を口 あ 月間に全国十 を見つめてい ネージャーの

しかし、舞

ヨッカイを出す。どうしろという ら線を引く。目印がないと分かり一できた。長い高校生活の最終符で り。富岡先生がウンウン唸りなが やであった。下見の為の地図作 にくいのじゃあないかと横から子 共通一次の前日は、てんやわん 「明石さん」と書いとけば ある。クライマックスであった。 る君達のやや上気した顔には、 れらの凝縮したものを見ることが 「蛍の光」を歌いながら退場すしれで皆体調が そ 空気、飲んで 彼らがコンデ に出ないし

卒 生

能力のあ

HIE担任 則 武

14期生のときでした。それ。まで観念的に頭の中で考えていた。」さを知ってもらおうと心掛けた積ではさらに各クラスの中で共に生 |高一から今度は担任として君たち|て、出来たての卒業アルバムを眺 一君という名手揃いで、洛星にはい をよく考えながら唱うことの大事 とう。私は つもかくれたさ ときは出来るだけ沢山の聖歌を君 たちとの間に妙な空気が漂って私」るる日を楽しみにしています。 の人たちのよう ですが、この学 中村元信君、 りでした。 生、北大路先生と一緒に宗教を担]かしい成果をあげたのでした。こ は中一のとき 聖堂でラパディ先|唱では二つのクラスが優良賞と輝 との付き合い たので私も大 たちに教えることと、歌詞の意味一のを作りあげるため情熱をかたむ 当したことに始まりました。この 伴奏をしてくれたのは 理解できず新しい人|にして強く生きて下さい。 また会 えて世帯が大きくなしりひとりがとっても頼もしくみえ が始まりました。新めています。君たち三八名ひと ス能の持主が多いの<br />
|多くの場で各人の持つ力を認め合 名たちとの付き合い 台 豊 君 、 下 野 太 郎 元たちとの出会いの一 の諸君卒業おめで一しかし文化祭での君たちはそんな ですが、しばらくは|ます。洛星でのこの出会いを財産 子年にはとりわけて る人材がいてくれ | 仲間同志になったのでしょう。 に助かりました。 れ、研修旅行、クラブ活動、生徒活するうちに新しい友人関係も生 一けた結果だったと思います。高二 一れの区別なく協力し合い一つのも は今やっと落ついた気分になっ 会活動そして文化祭・体育祭など グランプリ・アカデミー両質 い、喜びも苦しみも分かち合える れは準備の時から本番まで誰れか 心配をよそに「アベルの告白」 。洛星の入試』で展示特別賞、

昨年七月、スイスか|ックが店頭に並んでいるのをよく 成田に着き、東京・

きもきさせました。

たし、日本語で曲名を紹介してく は期待以上に素晴しいものであっ れる等サービス精神の旺盛な所も一だ」といった声も聞かれるが、 行い、本校にやってきたのであ一た。汚染は少しずつ進んでいる。 我々をすっかり楽しませてしりピンと来るものではない。 だろう。彼らは七月八一にならないぐらいだそうである。 とは記憶に新しいことが、味において水道の水とは比較 ら合唱団が来日したと一見かける。飲み比べるとわかる ソプラノのヨーデル (宮城県)で公領を|をひねると出てきた所が多かっ 年で飲めなくなってしまう。 そんな水でも、数年前までは蛇口 一現在の水や空気の安全性が心配 最近では、「川の水は、あと十数 余

にしつつ、立ち去り難い試験場を一や水が汚なくて、スイスと比べも一に見えるほど重大なものならとも 別な水を飲んでいる訳ではない。
| 生活廃水の中に含まれる有毒物質 を回った)も大変ハードなんです。日常茶飯事になったのかもしれな のにならないぐらいなんです。そ一かく、水や空気の汚染は目に見え が、それ以上に日本はどこも空気しい。しかも水俣病などのように目 ンが最悪なんです、との答え。 リッアーの 々が日頃吸っている一起こらないとも限らない。当たり イションを壊した原と言われるものは確実に蓄積され …。」彼らは何も特はずもない。しかし、工場廃水、 思いし声も思うよう ない速さで進んでいるので気つく 方が心配そうに彼ら り、四大公害病などは連日大きく 台の脇では日本側コーラ言葉が大いに叫ばれるようにな スケジュール(一ケ | 心に生まれたのかもしれないし、 彼らのコンディショ た。どうししたか、 |都市・二十数ケ所 | 交通事故や殺人事件の様なただの それらがかえって「公害」という 一報じられるようになった。しかし ものに対し何らかの免疫が我々の ているし、将来我々の健康に何も 昭和四十年代から「公害」とい

スーパーマーケット等に行く いる気である。 「きれいな水」のパーい思いがする。 おびやかすのかと思うと何か肌寒

前の「水」や「空気」が人の体を

卒業生から一言

## HILA

つくづく洛星に来て良かった、と 今更未練などはないつもりですが 年が過ぎました。卒業を前にして 学校」というあまりにも一面的で

無責任なレッテルに押しつぶされ

卒業しても洛星ファミリーの一員 結びつきを深めることができるの 動の中で先生方や先輩・後輩との です。「洛星ファミリー」とはよ 活動しています。そしてその活

大きくなりました。この洛星ファ を迎え、ファミリーも随分規模が た

この私でも卒業する時ぐらいは 小栗 仁志

の他色々と手を出したりしました ぶんええ加減な人間だったと反省 実していたなどとはお世辞にも言 が結局のところどれも中途半端に する事しきりです。生徒会活動そ る訳ですが、はっきり言ってずい 真面目に六年間を振り返ったりす しかしてないように思います。充

器の砕け散る寸前の男の贈る言葉

られそうな「卒業」であるが、思

三年間疾風のごとく駆けぬけてき たわけですが、僕としては特に野 学校生活にも慣れ始めて外へ目」かしこの三年間で確かに変わっ

らされることとなります。もちろ 今から僕達は一層広い社会にさ

だ。けれども身についた「芯」は う態度で行きたいと思います。

く言ったものです。そう、私達は一であった人は多いのではないだろ ることなく様々な分野で実に活発 ミリーのより一層の発展と在校生一ないような経験もいろいろとでき 私達の在学中に洛星は三十周年 | をテレビドラマの一時間ぐらいに

うと心に誓うのである。 の洛星での三年間を、将来の飛躍 れに友達にも恵まれたと思う。 の三年間にはこの時代にしかでき 思われる。短かくはあったが、こ き物の「恐物語」がなかったのが へのステップとして生かしてやろ そして今、卒業を前にして、こ

### HIIC 花本浩一郎

あれてれ悩むことと居眠りするこ 初代Eクラスの一員となりまし 一試合に出るのは途中からのことが 時間の方がたぶん長いでしょう。 とが多く、遊び損ねた気がしま

区切ということで心も動くこと

HIIC 船越 直人

ことに対し不可欠なこととなるもうか。わき目もからず一つの事に一を吸収して膨んだ。体中で落星を のでしょう。 求される責任感、これはあらゆる|ばしていける時期ではないでしょ| 自主的行動の必要性とそれ故に要 | 三年頃からが、様々な事に手を伸 | がついた体だけではあるまい。 球部員として得たものは大です。一を向ける余裕の出てくる中学二、

|正義すら屈する場合があるはず||す。他目を気にする必要など全で||た。素晴らしい先輩。尊敬する先 ん社会は甘くない。またそこでは一しては他にできない事だと思いま一連帯感と勇の友情を教えてくれ 失わず、そして社会への貢献とい一分から求めないでは何事も起りま一のもの。 etc……。 模索してみるのも、この時期を逃一にあけさせた神。タブローが友の ょうが、幅広く手に触れて自分を一て神妙に歩いた。僕の心眼を薄目 ありません。何をするにしろ、自生。関係代名詞 which ところ せんから、まず体を動かして自分 選進していくのも一つの青春でし | 感じる。 御ミサで白いガウンを着

から働きかけていくべきです。自

そして陽はまた昇る。

は必要だと思うのです。 い自尊心を捨て、いろんな声に耳 を傾ける大らかさ、柔軟性が時に のが洛星の特徴ですが、 を屈辱のように思う自信家の多い 分に溺れて他人からの干渉や批評

DIL 入江

残念といえば残念であるが。)を一祭、一夜づけにいそしんだ試験期 (ただ、「青春ドラマ」に付した悪ひで一杯だったあの頃、写真 Eクラスになってしまい、体育祭 が思い出されます。中学に入学し 業するのかと思うといろんなこと 間など。28期生は高校で一クラス 部で走り回っていた文化祭・体育 増え、何の因果か(?)初めての ようで短かったようで…。もう本 ったこともありました。つらかっ 洛星で学んだ六年間、長かった

けに振り回されないで、人間とし 思います。在校生の諸君も勉強だ は決して手に入れ得ないものだと|闘したと言われましたが成績は五|てゆく。僕の体は沈む夕陽で真赤|主体的存在であるよう努めなけれ|の文を書きたいと思います。私は| きます。このことは机上の勉強で一た。体育祭では、少人数でよく健 は自分を思い知らされるというこ一多く、学校の授業以外で活躍した **確実に得たものもあります。それ** えません。けれどもそれらの中で | ッカーは四年ほどやりましたが、 実体験で自分というものが迫って<br /> とです。 良きにしろ悪しきにしろ | ことはないようです。 高一の時は この六年間、振り返れば随分い

受験体制下でともすると軽んじ|たのは幸運でした。この六年が自

えば僕達にとって青年期の大切な 洛星という学校に入学して以来

第115号

聞

僕であるが(おそらく、同じ思い うか。)、高校三年間はアッと言 校生活に対して憧れを抱いていた う間に過ぎ去ってしまい、それこ 「青春ドラマ」を見ては将来の高 小さい頃、テレビでいわゆる HIIB 内藤 望

ろいろなことをしてきました。サー」の言葉が表わしているような何 の学校生活には「洛星ファミリー か温かいものがあったような気が

事をした時間より雑談でつぶした。ミックな教室だった。 位でした。生徒会においても、仕一だ。校内暴力もない静かでアカデ 食糧不足と飢餓で苦しむアフリ 教室の窓から見える西山が、大 HIID 川

にして、今はただ前を見て進んで か結論を出すのはしばらくお預け 分にとってどういう意味を持つの ませんが、偉い人が周囲に大勢い 「悔いなし」とはとても言え

だ。一廻り大きくなったのは脂肪 いたスポンジの様に洛星のすべて ドウ神父様、 富岡先生、 植井先生御退職 北大路先生、

父様と植井先生に寄稿をお願いしました。 なります。新聞局では北大路先生にインタビューを、ナドウ神 カウンセラーの北大路先生、国語科講師の植井先生が御退職に 本年度末をもって英語科のナドウ神父様、数学科の富岡先生、



もっと何かがあってもよかった HIE 幡新

いことを言っている。 業が来てしまった。 と思うが、何もないうちにもう卒 『未だ覚めず池塘春草の夢、 昔の人はうま

秀和 けでなく、洛星の子は、頼もし 前の梧棄已に秋聲。』 大人しい、悪いことをしないだ 階

ではたった一クラスで少々とまど一分を知ることによってはじめて、 たこと、苦しかったことも今では つなかしく感じられます。洛星で かし、世の風潮に流されるのは、 い、丈夫でなければならない。 春、さればこそ、自己を堅持して もまず、自分を考えよう。自分が とができる人間になろう。何より もっと情けない。落着いてものに 分からなければ何も出来ない。自 助じない、長い目でものを見るこ 自信と誇りを持つことができる。 避けられぬ入試に支配された青 受験に負けるのは情けない。

本質を見なければならない。 H III E 石田 修司

きな夕陽を地球の裏側に引っぱっ一意識を持ち、どんな体制の下でも 道也 ばならないと思う。 分自身を冷静に見つめ、 的軽薄短小型学生の増加が叫ばれ ている。しかし我々はあくまで自

この教室にあと幾日腰かけていら めれば、何かが得られる場であっ 沈む夕陽を見ている人もいよう。 こんな残酷な風景もある。平和な日として無駄はなかった。自ら求 力で、冷たくなった乳飲児に乳を 物質文明は頂点を極めている反面一々な活動や行事など学校生活に一 ふくませたまま、虚つな目でこの一の生き方をしている友人たちとの一 出会い、クラブをはじめとする様 での六年間は非常に有意義であっ 個性豊かな先生方、 自分なり 後の言葉としてこれを送ります。 の気持です。そこで諸君達への最 たのは一九四八年のことです。十

っているのか反問しなかった。し と言った。あえてどんな意味を言 へって変わったと言う。温かい奴一及んで悔いはない。 久し振りに会った友人は洛星に 々発展することを願って筆を置 北地方)に中学校をたてたのです。で区切りをつけ、国に帰って神 の頃で高等学校では火炎ピンが飛 めるとその頂上も見えなくなる。 体的に進んで行きたい。 現在、洛星を追い出される期に一九世紀以来フランスを始め多くの一 新しい道を主国々で教育事業を行ってきたこの

つつあるように思います。 洛星と 様になってしばらくやったんです

けれども、

一歩一歩登っていくとした事です。

松の学生時代に母が|顧問

行男先生(英語科)

北大路先生

植

て本校の発展につくされました。 十三年間にわたり学園の基礎を固 また英語教育にも情熱を傾けられ め第二代校長、第五代理事長とし がありました。 神父様の厳しい授業はつとに定評 ナドウ神父様は学校創立以来三

「この洛星を 残して」

確固たる意識の形成には、洛星|を教えたり、色々な面で生徒達と が、この度洛星を辞任して国に帰一ファミリーを作り上げていったか ヴィアトール学園創設以来、英語 子を残して」という本を書かれま 長崎の有名な永井博士は「この た。

ヨゼフ・ナドウ

したが、私もこれにあやかってこ」がどんな人柄で、どんな行動をす

ることになりました。今の気持はらに他なりません。たとえ学習成 永井博士がこの本を書かれたとき。横が良くて、進学率が高くても、 かかわり合ったりしてきました。また互いに協力し合って、立派なってしまった訳です。その時は十 我がヴィアトール会が日本に来一ても、広い意味での評判は落ちて ければ、狭い意味での評判はよく一工業で教え始めたんです。又十年 態度が悪く、人間として立派でな一工業科を新設せよといわれて洛陽 野も、生徒一人一人が努力し、 す。学校もこれと同じで、洛星の 続けて来たこの洛星も最近変わり|てしまって又辞める訳にはいかん 行くでしょう。創立以来ずっと見一丁度十年目に生徒部長をやらされ るかによって、評価がきまりま 年たったら辞めようと思っていた。れで小さな小さな足跡やけど北大一たものです。 たったらやめるぞと思っとったら が、恩師の高校の校長先生に電子 から十年目に辞表を出したんだ たもんやから逃げることも出来ず です。 ももちろんあります) は越えていると思う。 『あ、どれ位売れましたか?』

ナドウ神父様 学をつくり、百人あまりの新入生 でした。創設時の目標は一人間数 広い田圃の中にボツンと小さなクー徒に倫理の授業を通して語ってこ を迎えて出発したのです。当時は 校を設立しようと考えたのです。 育」に重点をおくことで、敗戦の と日本にカトリック精神に基く学 台の校舎がたっていただけ Ġ,

取材前に

ピューはできませんでした。

ぶという態度が、付焼刃でなく自

こには当然規則を守り、人に対し

君達が世の中に出て行けば、そ

い中をどうも有難う

の程、賢明な君達ならわかるでし

に着くことができ
「男ばかりの学校であるのに、紙

交覚えておいて欲 | 四一つ落ちていない。静かで、生

月から三田学園で教えられることなかった色々な事件や、人間関係

二年間先輩として の中になにかギスギスしたものが

国語科講師として教壇に立たれ四

いているからこそ、今迄考えられ ないと思います。各人がそれを欠 然とにじみ出してこなければなら

本校七期生の植井先生は二年間 

後輩を見てこられた先生は我々に一感じられるのではないでしょう

か。君達は今、それら学業だけで

なく、人間として学ばればならな

になりました。

次のような言葉を残されました。

後輩

井

繁

る、恵まれた最高の場に在ると私

いものを自分自身のものと出来

は信じています。いつまでも懐古

「黙想!」昨年同窓 的になってはと思いますが、やは

り一つの芯になるものは今の内に

本通しておかなければと思いま

井 先 生 よく耐え、素直にそれを実行して 指導目標を掲げて厳しい姿勢で臨 くれました。学校を訪れた人は、 みました。一期生はこの厳しさに 学校の清潔なこと、静かなこと、

?

す。これは校内ばかりではなく校す。ナホトカから。君らわからん 徒達の生活態度によるものでし |ので少しやってくれんかと言われ のです。初めの六年間は今日のよ。おったんです。そしたら知り合い たのです。それは大学進学率が問けるし、もうへトへトの状態で ではなく、洛星への評価は寧ろ生」る公立中学校の教員の穴があいた

たのです。それは大学進学率が問けるし、もうヘトヘトの状態でには、貧乏のどん底でした。だかかった洛星の評判が広がっていっ以下やからね。栄養失調で頭ははてしまって、僕が小学校にいる頃 外の行動にも表われ、離も知らなやううけどね、捕虜の生活は奴隷ってね、だが明治維新以来零落し うな烈しい入試競争があったわけ の人が教育委員会におってね。あ 小さい頃からよく本を読んだ記憶 などと思われる事でしょう。 現在 君達を見ています。 又自分達の過 ない時代に既に有名になっていた。子でないしどうしょうかと思ってす。僕が中学校の頃からは、戦争 題にならない、卒業生さえ未だい。ね。何かせなあかんけど体も本調。らハングリー精神はあるつもりで、とのような言葉が私の耳に飛び込 家匠においても家族の一人一人。ケ月教え終わると、次も是非と賴。は本を書くことだと考えた。本を一く、学校・先生方の指導の下、自ってはしいと心から願っていま にあれ
これしてる間に
五、六年た
れで偶然ではあったけれ
ども、そ いてね。教員の。担任を持たされしょう。選定図書に選ばれたら国れていく寂しさを含んでいるよう て一月に教え始めた。ところが一したいと思った。そうするために一私の耳にはただ懐しさだけでな一達の力で、洛星をより良くしてい まれる。あ、僕は当時免許持って一書くとね、必ず著者の名が残るで の夢は成就することができた。こ があって、俺はいずれ死ぬんだ。 で青春の夢なんて何もなかった。 神社の東の地名で、そこに家があ 会図書館にも保存されるしね。そ では確に陳腐 の生徒はな…… に聞こえてなりませんでした。

君

洛星が益|修道会は戦前中国の満州(今の東|共に歩んできた私の人生も、ここ|わ。その当時は学園紛争たけなわ|のふもとにも来ていない。登り始|に私達の洛星に |略という人がいたことを残せた訳|ふえましたね! その服装・態度|た。昨年の同期のものをほぼ路襲 ラーん。<br />
六冊全部だったら十万<br />
|と思い決め、<br />
襟章を確かめてはが<br />
願いします。 山の頭上の見えるうちはまだそ一のに!そして教壇に立ち、そこ (図書館に)っかりしたものです。すべての方 スタッフ た事の余りの名 はない。これ 全くと言ってよい程なかった事な には、紺の制服を懐しく目で追っ 以前、私も京都に立ち寄った時 しかし、紺の制服が 時代に見かけなかっ んが。私達の頃では

展させてください。ではさようなで、すごかった。その時に比べた いのですが紙面の都合でこれだけ ください。もっと、もっと述べた一和四十五年に洛星で教え始めてず て直し、洛星の発展に力を注いで一声がかかったという訳ですわ。昭 時の先望達が創り上げたよき伝統一た。ところが子供が洛星にいて協一しい。(局員が関東軍のことを聞一徒さん達は本当に礼儀正しいね。」 日本を去りますが、どうか創立当 を汲んで、この学園をますます発 しか書けません。どうか私の気持 もう一度反省の上にたって建 心残りながらろ有様で辞めるに辞められん。そ一必ずその頂上 うっと来ている訳です。入った頃 職員室は燃える生徒部は燃える も学園紛争の余波が残っておって 力会の役員をやっていたもんで御一 れが下火になった頃に辞表を出しる。この事を でざいました。 の事は思い出させんといてくれ… なくなっているのです。 私の落胆 き出そうとすると…。) もう戦争 と言わせた洛星が、ものの見事に 富岡先生は御都合によりインタ ては礼儀を重んじ各人の人格を尊 以上おとし

作法」「整理整頓」「時間厳守」 特に「他人への思いやり」という 混乱から立ち上がりつつある日本 としての生活を強いられたという にだんだん生徒と先生の距離が広 連軍に捕らえられ極寒のシベリア 終戦の年に満州へ渡られました。 その豊かな経験を中一、中二の生 内地への引き揚げもままならない られました。京都の上賀茂で生ま まま終戦後の混乱の中にあってソ れ育った先生は陸軍の将校として へ強制連行されて炭鉱労働と捕虜 北大路先生は十五年間洛星で、 しいね。理不尽な事でも先生に言 ないかと思う程、軽快なテンポで 頭に腹案を練っておかれたのでは やぐちゃ言ってるでしょう。それ ね、もっと本音を出していってほ われるとハイッときいて後でぐち ながら一息に話された。 ね。(先生はここまで余談を交え ら今なんであほみたいなもんです 『今の洛星の生徒については?』 能力のある人ばかりですから

ことです。 がってきているように思う。先生

|ことに感銘をうけられたようで|和二十三年の春に復員したんで|をう。北大路っていうのは上賀茂 一僕は専攻が電気工学なものだか<br />
|打ち解けていって<br />
局員が先生の話

|出会う生徒達が皆丁寧に挨拶する|ったんですよね。シベリアから昭|れていって雑談をしている趣に) |て、懐しさの為か | 層華いだのは 落ちついた雰囲気、それに廊下で | ら教師になろうなんて思ってなか | に口を出すようになり、話題がそ | らは、洛星時代の話しに花が咲い 『洛星に来られたいきさつは から目に見えないものを吸収して 生、同窓生ともドッと沸き 干数 いって欲しい。(次第に雰囲気が 私達は生徒に戻りました。それか 年を一瞬の内に 会の記念撮影 **ルタイムスリップし** じのことです。先

それならば自分が生きた足跡を残れる事柄もあるでしょう。しかし一部としている私達の為にも、 |分達が築いてきた何かが打ち壊さ|す。 の中ではどうだ?」「学校は?」 んで来るのです。君達から言えば には……だったのになり」「学校 言うまでもありませんでした。 「又先輩が昔の事を持ち出して」 「植井、此頃町で見掛ける洛星 衛として片付けら だけど、俺達の頃 一去を、自分達を生かしていく糧の していますし、その様になるでし は君達だと思っています。それだ のトップに立って活躍していくの | 何事にも対処していく時代になら のです。多くの人が協力し合って 個人では追いつけないほど早いも であるように、君達の先輩は常に ょう。その君達がいずれそうなる けの頭脳を持っている君選だと信 ています。その中で、各々の分野 今、世の中の進歩の早さは、一

編 集 後 記

を見て「この生徒は洛星の生徒で」した結果に終わりましたがいかが は洛星の生徒だ。」 |でしょうか。 来年度もよろしくお の新聞がなんとか出来上りまし 高一生が中心となっての初めて

さに一度びっくり HIC 川嶋 HⅡA 近東 HF 佐久木 HIA M<sub>3</sub>B 桑山 HEE 加藤 HIF 関 D H H B 若林 中村 河本